

科目ナンバリング		G-LAS00 80006 SJ44							
授業科目名 ＜英訳＞		アントレプレナーシップ演習 Entrepreneurship Exercises				担当者所属 職名・氏名		産官学連携本部 特定教授 木谷 哲夫	
群	大学院共通科目群			分野(分類)	社会適合			使用言語	日本語
旧群		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2024・ 後期集中		曜時限	集中 未定		配当学年	大学院生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
専門分野についての高度な知識を持つ大学院生にとって、企業という形態を通じた社会における研究成果の活用の方法や、独自の研究テーマをさらに深めるための多様な資源獲得の手法について、幅広い理解が欠かせない時代となっている。特に欧米においては研究者が事業化を目指すことで、幅広い投資家から研究資金を調達することが一般化しており、自分の志す研究を深めるために、アントレプレナーシップの果たす役割は大きくなっている。 アントレプレナーシップの定義は “ The pursuit of opportunity beyond the resources you currently control ”（現在所持する資源を超えた機会を追求すること）とされ、アントレプレナーにとって必要なスキルとしてはOpportunity Recognition（事業機会の特定）とResource Acquisition（資源の調達）が重要となる。 本授業では、前者の事業機会の特定に重点を置き、アントレプレナーの活動をシミュレーションする。事業アイデアの創造、技術の探索、仮説の検証、ビジネスモデルの構築といった一連のプロセスを、講義とグループワークの組み合わせを通じて体感していく。									
[到達目標]									
受講生は、講義で具体的な手法について学ぶと同時に、それぞれの主体的な興味・関心に基づくテーマを選び、グループワークを行う。受講生は、グループワークを通じて起業のプロセスを実体験する中で、下記の3点について理解を深めることを目的とする。 1）起業において必要な方法論、特に事業機会を特定する手法について学ぶ 2）起業におけるコミュニケーション、チームワーク、リーダーシップの重要性について理解を深める 3）研究成果と社会との連結について理解を深める									
[授業計画と内容]									
グループワークで起業プロセスのシミュレーションを行う。以下のトピックについて、それぞれ授業を実施する。 1．イントロダクション、海外事例分析： 海外のイノベーション事例分析をもとに、将来の制度や生活者のニーズの変化、事業の可能性を予測する。 2．リーンスタートアップ： リーンスタートアップのコンセプトを学習し、技術シーズ探索、ステイ・スモールのアイデア創出を行い、発表、ディスカッションを行う。 3．アイディエーション： マイクロトレンド（ミクロな変化の兆しへの着目）、メタファー（動植物をヒントにするバイオミ									
アントレプレナーシップ演習(2)へ続く↓↓↓									

アントレプレナーシップ演習(2)

ミクリーなど)などの手法を用いて、ビジネスアイデア創出を行う。(技術イノベーション事業化コースと合同)

4. ビジネスモデル:

顧客ニーズ、提供価値、収入・コストを含むアイデア全体について仮説を立て、外部インタビュー等で検証・修正を行う。

5. プレゼンテーション:

最終プレゼンテーションを行う。真剣な投資検討の対象になりうるレベルを目指す。

日時未定

[履修要件]

大学院教育支援機構が提供する「産学協同教育コース」をコース履修する際には、本科目受講後に「技術イノベーション事業化コース」を受講することが望ましい。

事前に以下の受講を推奨

「アントレプレナーシップ入門」(大学院共通、前期集中)

[成績評価の方法・観点]

授業中に課す個人レポート 20%

最終発表 40%

グループワークにおけるチームワーク、コミュニケーション 20%

授業への貢献(出席・発言) 20%

[教科書]

エリック・リース 『リーン・スタートアップ』(新潮社) ISBN:978-4-8222-4897-0

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/ims/>((授業についての予備知識・関連イベント等))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業初日に提出する事前課題あり。課題内容については授業登録者にたいしてPandA等で連絡します。

[その他(オフィスアワー等)]

●本科目は大学院教育支援機構が提供する「産学協同教育コース」を構成する科目であるが、コース履修に関わらず本科目のみ受講することも可能です。

●質問等がある場合は以下まで

kitani.tetsuo.2s@kyoto-u.ac.jp (→@)

面談希望の場合は事前に上記メールでアポをお願いします